

中学校及び高等学校の部

優秀賞

「観光業を発展させる為に」

恩納村立恩納中学校 3 年 具志堅 百絵

私は、小さい頃からずっと沖縄で暮らしてきました。私が思う沖縄の人達は、みんなとても優しく、家族のように感じる程です。そして、私はこの「温かい沖縄が大好きです。

私が住んでいる恩納村は、沖縄で有数のリゾート地です。沖縄特有の和やかな空気や自然を求めて、毎年多くの観光客がやってきます。

私の母も、この恩納村のホテルで働いています。ホテルに勤めて、もう二十三年になるそうです。ホテルの仕事は、年間の観光客数にも波があり、維持するのがとても大変と聞いたことがあったので、そんな仕事をなぜ母が辞めずに続けてきたのか、私は疑問に思いました。だから、母に辛くなかったのかと聞くと

「辛かったよ…でも、このホテルに来ているお客様は、他の沢山のホテルの中から、私の働いているこのホテルを選んでくれるんだよ。だから、沢山のお客様と出会えるのは何かの御縁があるんだよ。お母さんは、そんな人達と出会えるのがとても幸せだから。」

そう言いました。私も、母の働いているホテルで沢山の皆さんと出会いました。中には、私の小さかった頃から、ずっと私の事を知っている方もいます。そんなお客さん達の事を、私も母も「家族」だと思っています。

私が思う沖縄の良さは、気候が暖かい事や沖縄に暮らす人々が温かい、自然

が豊かということです。気候が暖かい日は沖縄に住んでいる私も晴れやかな気分になります。そのような沖縄の良さをもっと多くの人に知らせ、来ていただくためには、どうすればいいでしょう。

五月に開催された島サミットで、私の通っている恩納中学校に各国の首相夫人の方々が交流をしにいらっしゃいました。私は、こんな体験をするのが初めてで、とても緊張しましたが、夫人の方々が優しく接してくれて、とても楽しく交流できました。しかし、私はこの交流会で一つ悔しかった事もありました。英語を話すことができないという事です。恩納村には、最近「OIST」という大学院大学もでき、沢山の国の人達が、この村に集ります。そのような中で、英語を話す事のできる人が少ないのはかなりの致命傷だと私は思うのです。沖縄には方言を使う文化が根強く残っていて、その独特なイントネーションも他県の人々にとっては、魅力があると思います。私はその方言と並行して国際的な言語を取り入れたら、もっと沢山の人が海外から訪れてくれるのではないかなと考えました。

また、この交流会でもう一つ心に残ったことは、サンゴの問題についてです。沖縄の海が、今でもこんなにきれいなのは、サンゴが海に住む魚達の棲みかになっているからです。他にも、サンゴは自然の防波堤になってくれたり、家を作る材料にも利用されたりしています。しかし、そのサンゴが今、オニヒトデの増加や白化現象によって減少してきています。また、私達人間自身も、サンゴに大きな被害をもたらしています。赤土の流出や生活排水での海の汚染、埋め立てによる地形の変化等です。このままいけば、きっとこの沖縄の美しい海はなくなってしまうと私は思うのです。

私の祖母が若かった頃、恩納村の海には、もっと沢山の魚がいたそうです。

「昔は、恩納の海で沢山カニをとったりしてねえ、とても楽しかったんだよ。

でも、今は色々な環境問題があつて、魚の数も昔よりめっきり減ってしまったよ。」

祖母は悲しい瞳をしてそう言いました。私は、祖母が生まれた頃には戻れませんが、昔の海は、きっと今より数倍もきれいだったのだろうなと思いました。それと同時に、私は「昔のきれいな海を取り戻したい」「私も祖母がみていた海をみてみたい」と思いました。

そのためにはまず、生活排水を海に流しすぎないことや埋め立てをしない事が重要になってくると思います。どんな理由があつても、私達のエゴで自然を破壊してはいけないと思うのです。まずは、できる事から一つずつ行っていきたいです。

交流会でサンゴの問題についての発表を聞いた後、私達は夫人の方々と一緒にサンゴの植え付けをするプレートに植え付けられたサンゴが十年後、二十年後に大きく育っている事を願って、

「サンゴよ大きくなれ」

と書きました。サンゴを増やす活動に私も貢献できて、本当に良かったです。

このような体験を通して、自然を守ることの大切さや国際的な交流の大切さを知ることができました。そして、これからの沖縄は、基地などに頼るのではなく、沖縄の良さを活かした観光産業で発展させていくべきだと私は考えます。私の大好きなこの沖縄が発展していくように、私達沖縄県民が力を合わせていこうではありませんか。